

枯木のある風景

こいつはいつも枯木のやうにぶらさがつてゐる
墨灰色で、何かひやびやとしてゐる
季節の感應なんか勿論ありはしない
そのくせ どこか陰見で、本能的で、強靱だ
時にはじたにたと世辭を言ひながら隣に坐つてゐる
風が吹けばぶらぶらと揺れ
お天氣の良い日には虔しくとぼけてゐる
こいつめ、一つ、
ポーンと撲りつけてやりたい時がある
噫そんな時は、例の手くだで
美しい小禽の音楽かなんかを聞かせるのだ
うつかり眼が合ふと
眞黒な大鴉を宿めて
凝つとこちらを見つめてゐる
こいつはまるで枯木のやうにぶらさがつてゐる

(昭和十六年「山桜」二月号)